

長崎
写
又
録
正

洋学文庫
文庫8
C 274
4





長河内見録卷之五

目錄

まてまきまのり	牛膽 <small>ごんたん</small> 南星
あしくら	のり <small>のり</small>
蜜 <small>みつ</small> 紅 <small>こう</small> 石 <small>いし</small>	蛇頭 <small>へだう</small> 石 <small>いし</small>
づとやうとごまほん	ころもいん
阿茶 <small>あぢ</small> 陸 <small>りく</small> 菓 <small>か</small> 子 <small>こ</small>	ころもつが
紅毛縮砂	うらあま
蜜 <small>みつ</small> 栗 <small>りし</small>	蜜 <small>みつ</small> 圃 <small>ぼ</small> 水 <small>すい</small> 仙 <small>せん</small>
仁 <small>に</small> 魚 <small>ぎょ</small>	魚 <small>ぎょ</small>

長河内見録



落里波

落斯馬

海女

吸玉

阿茶治びんの夕

ひやうてすとゆうてんてん

新製遠月鏡

カガ

航魚

海人

弦朝顔の盃

和毛人外科箱の夕

長崎通商手帳見録卷之五

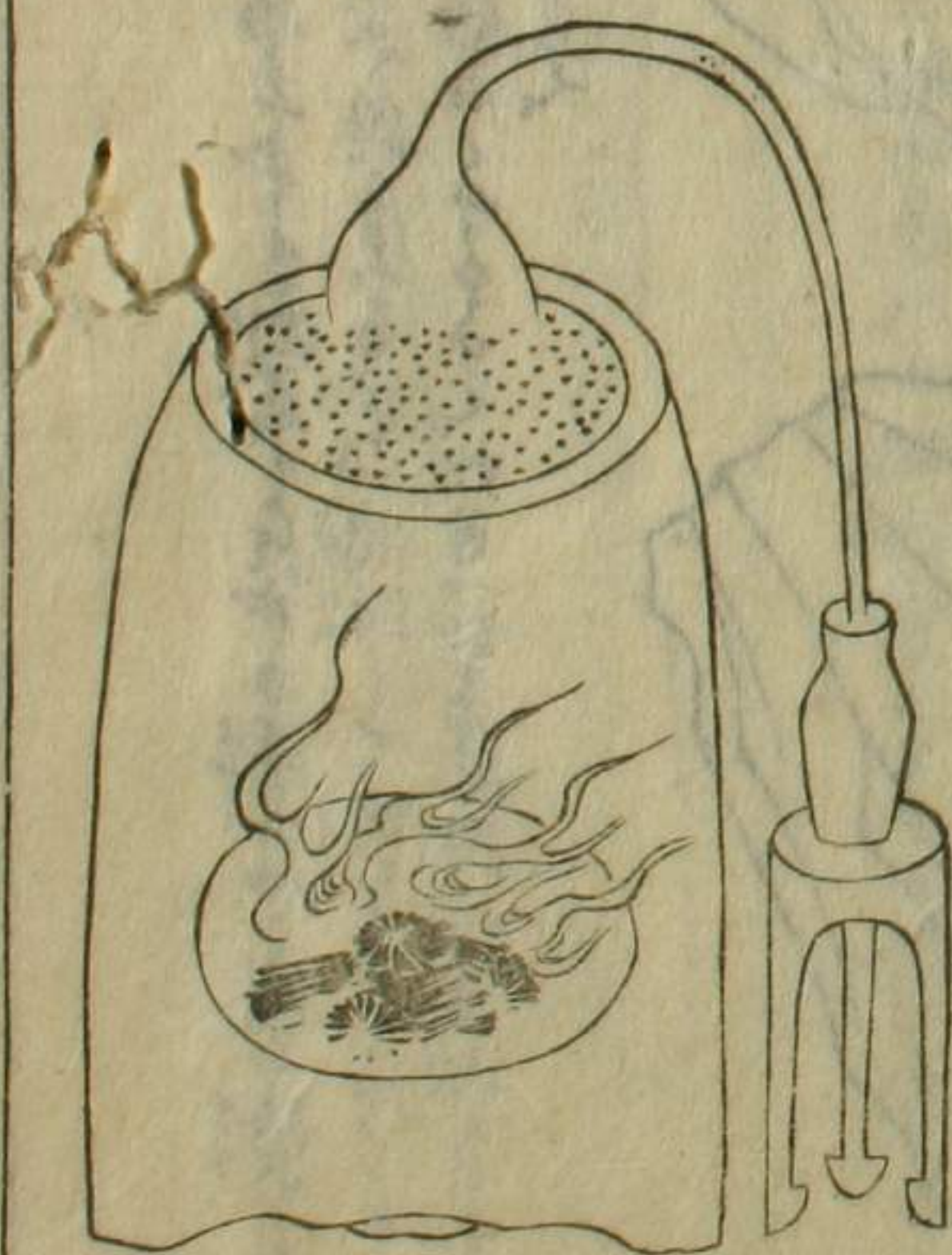
さてききこあたる仕事

ことごとく猛り。ことごとくある。雲人おぼく。ある茶の名なり。け水茶
 ことごとく猛烈なるものなり。俄にゆるぎなく引揚る。急な細氣立の
 なる。細織の糸は詰満する。ふふ腐極と。雲人細極成る。小ながら隙をかき。
 その隙面は細畫まこと文字をを彫りて。さてけある茶。彼隙をの隙たる
 ことごとく入。一夕をそを隙と洗い落す。ふらの音をそく。種々の彫刻にけりく
 と。如松とるもの。またまたに腐茶。第一の種なる。稀におぼく。公儀の御堂
 上りたる。またまたのく。またまたのく。またまたのく。またまたのく。またまたのく。

一。種々の硝子紙をく。製しきり。け茶を製する。先製するは
 相より腐敗を定むるべく。製面倒るるもの。硝子腐敗せよ。これ
 種々の硝子紙をく。硝子まて種々の硝子紙をく。定むるべく。先
 一層硝子を造り。その硝子砂をぬき。茶の入りたる口を硝子紙。彼砂を
 埋め。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層
 とく。硝子の層下に倍硝子をく。煙を烈火硝子紙。硝子の層

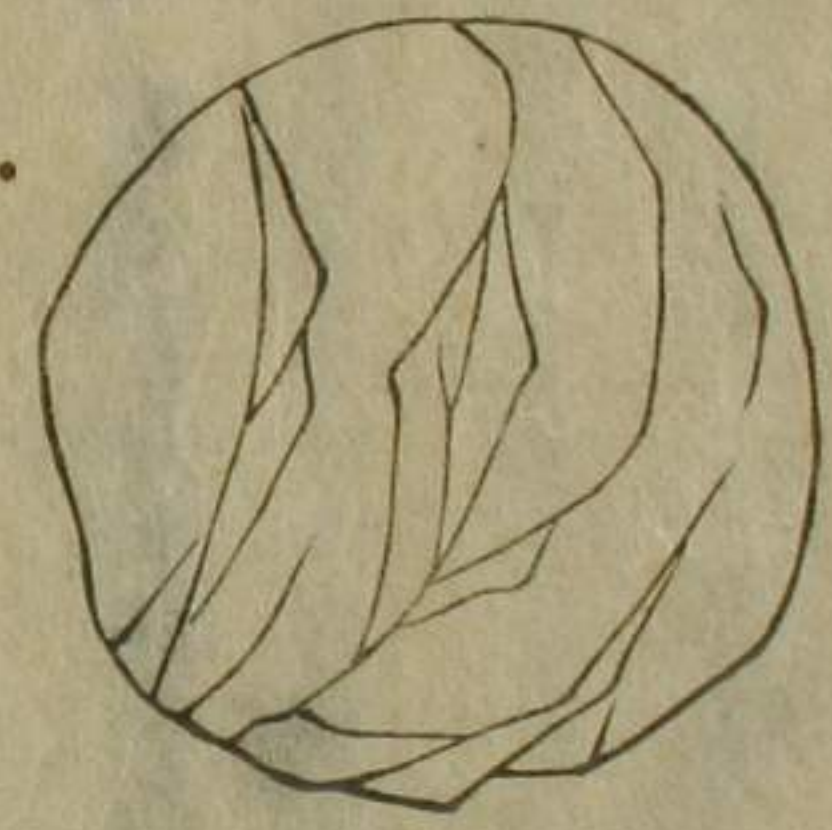
とてきりこのとて

製一の茶



牛膽南星

牛膽南星。唐人の持渡る物也。其色微黒。其味苦。其性平。其功。能治一切瘧疾。及一切疔毒。其功。能治一切瘧疾。及一切疔毒。其功。能治一切瘧疾。及一切疔毒。

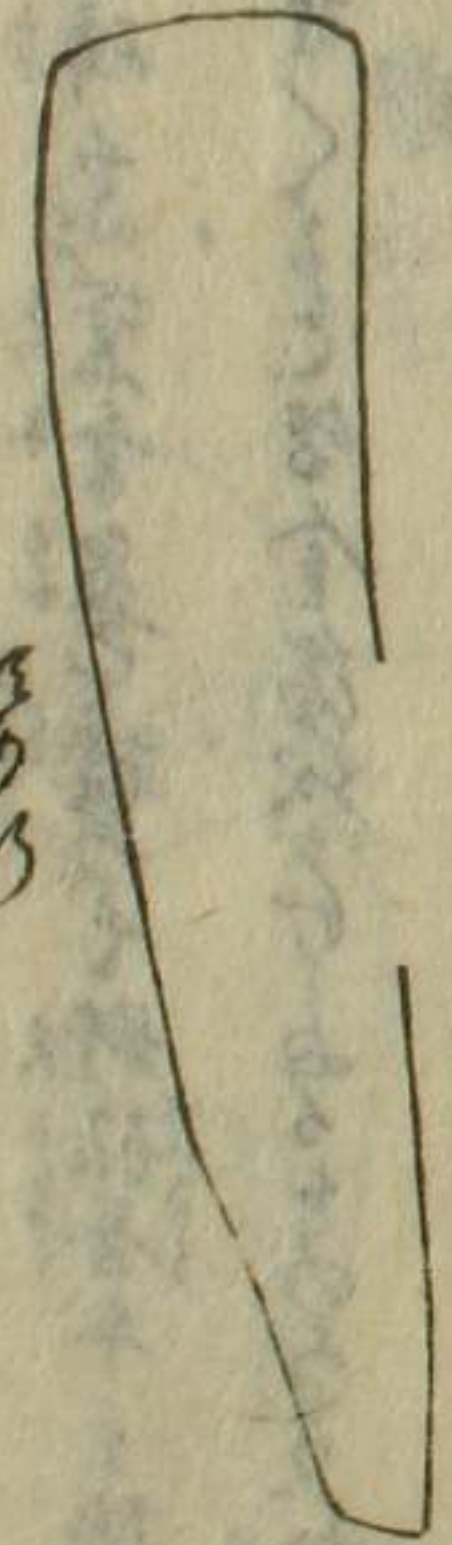


牛膽南星の形はかく
まゝの包く製する物也



赤くらすと

赤くらすと。紅毛人持渡る腎薬也。形如角の如く。其味苦。其性平。其功。能治一切瘧疾。及一切疔毒。其功。能治一切瘧疾。及一切疔毒。



赤くらす

のこころ

のこころ。天竺製法の草相中にて。紅花より。大小は定まらず。金箔と衣
 よりけり。物にて。是と碎ふ。蒸す。鼻と搗つ。其粉。紅花半玉。搗のや。一重
 く。こまかく。こまかく。皆金箔。ひきぬる。あり。効強。ま。ん。ん。
 回復する。人。参。上。百。倍。と。る。り。ま。と。り。く。一。切。の。意。存。二。三。分。削。く。
 白湯。と。り。く。送。り。後。と。紅。毛。人。稀。と。り。く。と。り。く。の。よ。く。せ。價。値。高。き。事。一。此
 草。あり

のこころ



赤心

赤心。心。赤。人。性。持。海。大。抵。雅。俗。の。知。血。赤。あり。は。赤。心。と。も。風。
 あ。これ。乾。く。味。苦。芳。な。り。昔。法。あり。硝。子。と。搗。く。と。り。入。密。
 封。され。蒸。す。搗。せ。と。り。ゆ。あり。久。く。す。れ。た。葉。氣。と。搗。き。研。じ。す。
 事。あり。名。り。白。心。あり

赤心



蛇頭石

蛇頭石は紅毛人指渡る。まらんがしんぐと云物にて。凡蛇虫の咬みある處
 へは石を敷置る。毒ある所へ吸附く離れしと。その自然に落ちるる所
 乳汁は浸す。須臾して毒乳汁はいつる。又は清水に浸す。洗ひ目も
 して再三敷置る。けり履造るもの。此石は林林の間に秘す。此
 石のものもある。白きもの。是れあり。是れたふます。此



漢名吸毒石

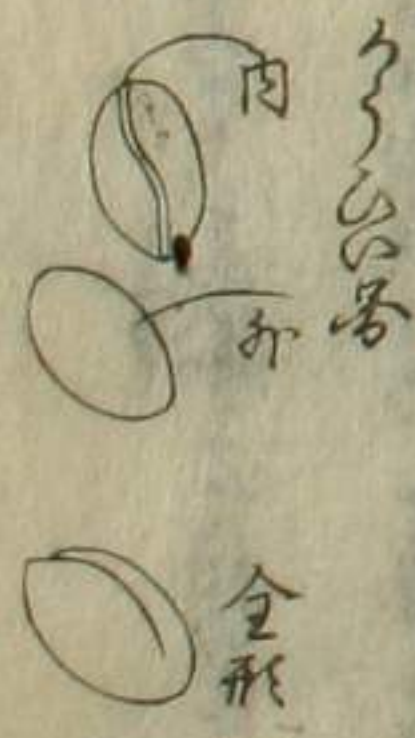
ついでにやうにやうにやうに



ついでにやうにやうにやうに

ついでにやうにやうにやうに。此石は紅毛人の指渡る。まらんがしんぐと云物にて。凡蛇虫の咬みある處
 へは石を敷置る。毒ある所へ吸附く離れしと。その自然に落ちるる所
 乳汁は浸す。須臾して毒乳汁はいつる。又は清水に浸す。洗ひ目も
 して再三敷置る。けり履造るもの。此石は林林の間に秘す。此
 石のものもある。白きもの。是れあり。是れたふます。此

ついでにやうにやうにやうに。此石は紅毛人の指渡る。まらんがしんぐと云物にて。凡蛇虫の咬みある處
 へは石を敷置る。毒ある所へ吸附く離れしと。その自然に落ちるる所
 乳汁は浸す。須臾して毒乳汁はいつる。又は清水に浸す。洗ひ目も
 して再三敷置る。けり履造るもの。此石は林林の間に秘す。此
 石のものもある。白きもの。是れあり。是れたふます。此



かゝるん

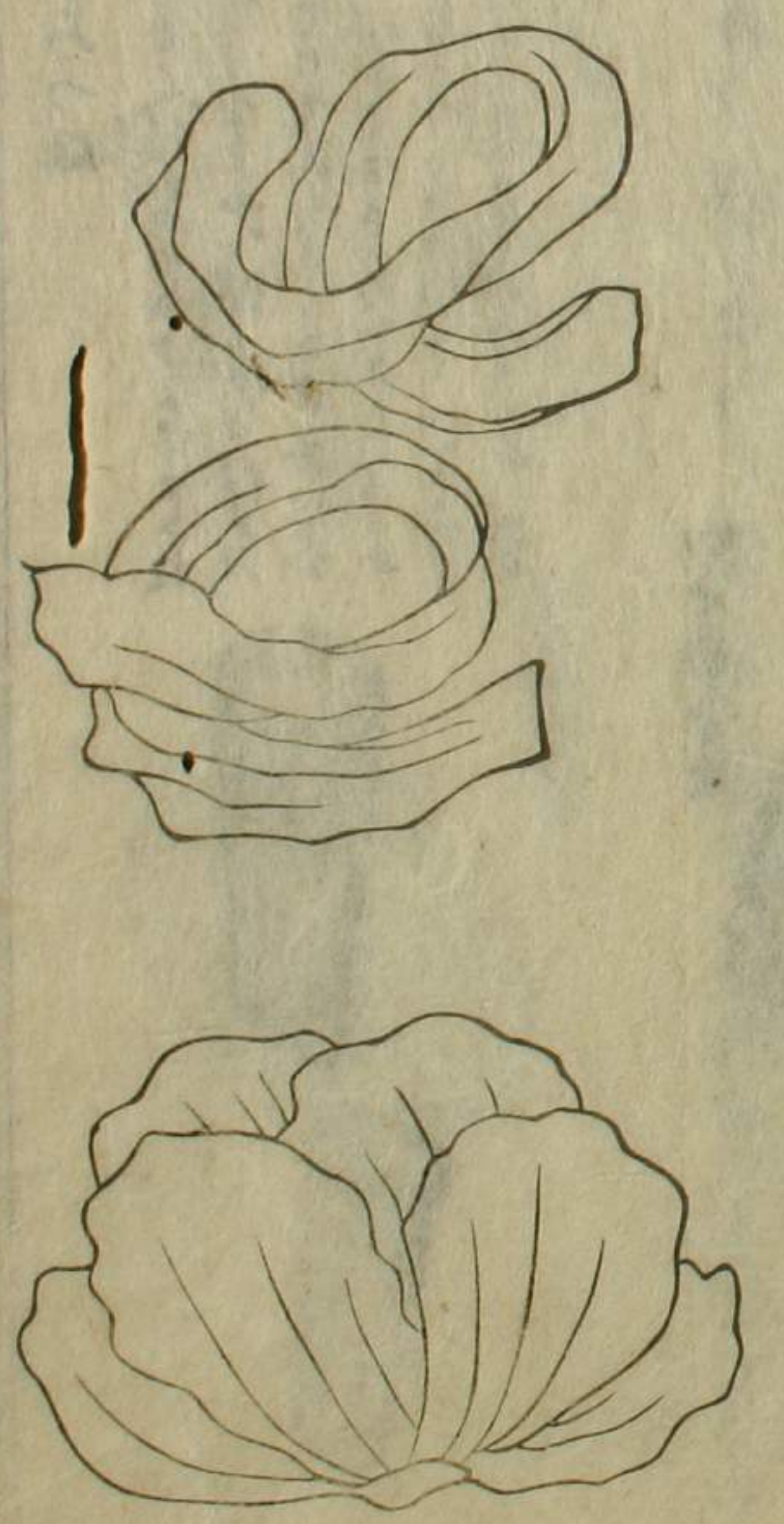
かゝるんは、ひらひらと響く。其の音、
 かゝるんは、ひらひらと響く。其の音、
 かゝるんは、ひらひらと響く。其の音、
 かゝるんは、ひらひらと響く。其の音、

かゝるんは



阿蘭陀菓

紅毛人創る。梨を切る。菓子を作る。其の味、
 紅毛人創る。梨を切る。菓子を作る。其の味、
 紅毛人創る。梨を切る。菓子を作る。其の味、



あろつぬ

ころつぬ。人病みのたがひする薬。
おもしろ。わづらふも。温言をゆき
すぢく。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
どのほひ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
利刀のあろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。

紅毛縮砂



あつぬ



用法主治未詳



薬標

薬標の。果するものあり。是一考ゆて。たさ猪子のく。法向文新ひり。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。
あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。あろつぬ。

薬標の果



雲國の水仙

雲國の水仙。仙人持てくる水仙。根をくく。根を似たり。根を
み入根を浸して煮る。花を生じ。根を仙の名。苗なり。

水仙之圖
漢名月下香
唐名十样儿



大海壽物
仁魚

仁魚。大魚。七四月大なる。まゝ魚。仁魚。害せんとする。小。仁魚。ありて
能く船を保護す。悪魚。根を洗う。或る魚。真の弱魚。喰ふとする
と。亦よく保護す。喰ふ。海人。魚を捕る。と。捕る。と。つり。

魚 仁



くを伺ひ。多し飛入く。龍湯と名づく。徳大相長く。驚るる。昔し〜
と。又龍後茶と云ふ草あり。夷魯人は草と極む。ラガルと云はく。あ
ざらるり。

ルガウ



落斯馬

長く四文許。第一程と云ふあり。厚く
海面上に浮く。幼くありしとき。鱗甲
實眼こそ。刀細と形する。〜



航魚

介甲の殻。大を僅く。〜
甲殼。〜
〜
〜
〜



海女 人魚

半才以下の女人を捉へ
才以下の魚を捉へ人魚
骨を以て社下魚を為す
妙業也。善信よ。イシトト云。
紅毛人おとくる事あり



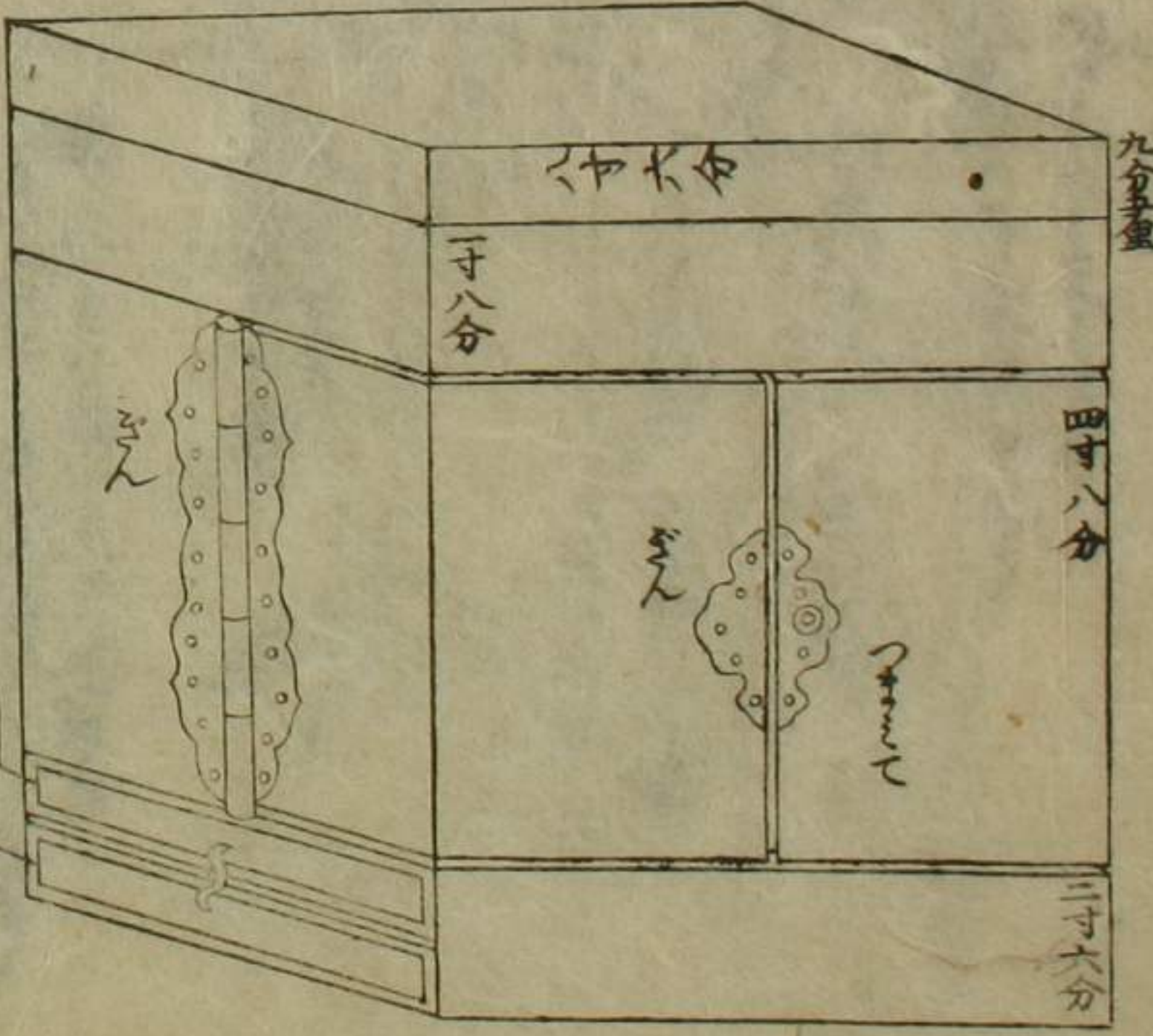
海人

全身を肉皮ありて下に歯をくち。袴を著たり。似たり。其母人神より来り
ど。よ。是等ありとあり。獲地よのかり。救日と云くも。死せざるものこと也



紅毛人外科箱の図

熱を化して。箱の全面を。よき
 漆で塗り。蓋を反して。蓋と蓋の
 隙のすきまを。はるかに紙を
 入る。蓋の隙は。うすくして。蓋
 と蓋とのすきまを。うすくして。蓋
 入のすきまを。うすくして。蓋
 蓋も。うすくして。蓋のすきまを。
 はるかに紙を入る。蓋のすきまを。
 のすきまを。うすくして。蓋のすきまを。
 かけのすきまを。うすくして。蓋のすきまを。
 物を。うすくして。蓋のすきまを。
 指せ。うすくして。蓋のすきまを。
 外科箱のすきまを。うすくして。蓋のすきまを。



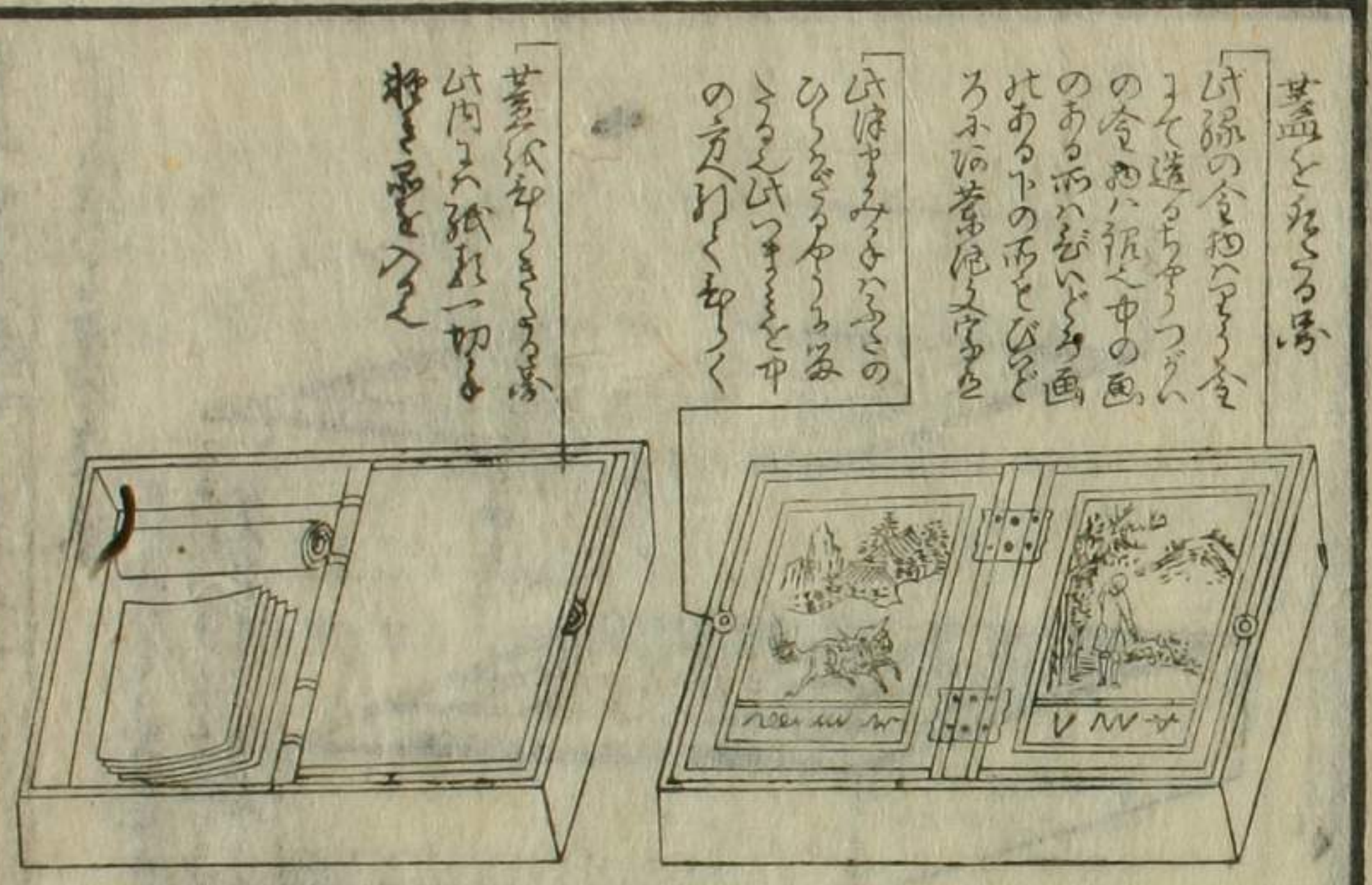
箱のすきまを
うすくして
二寸一分
内八分
半分

其面をなぐる

け強の金を入れし令
 くて蓋のすきまを
 のすきまをうすく
 のすきまをうすく
 のすきまをうすく
 のすきまをうすく

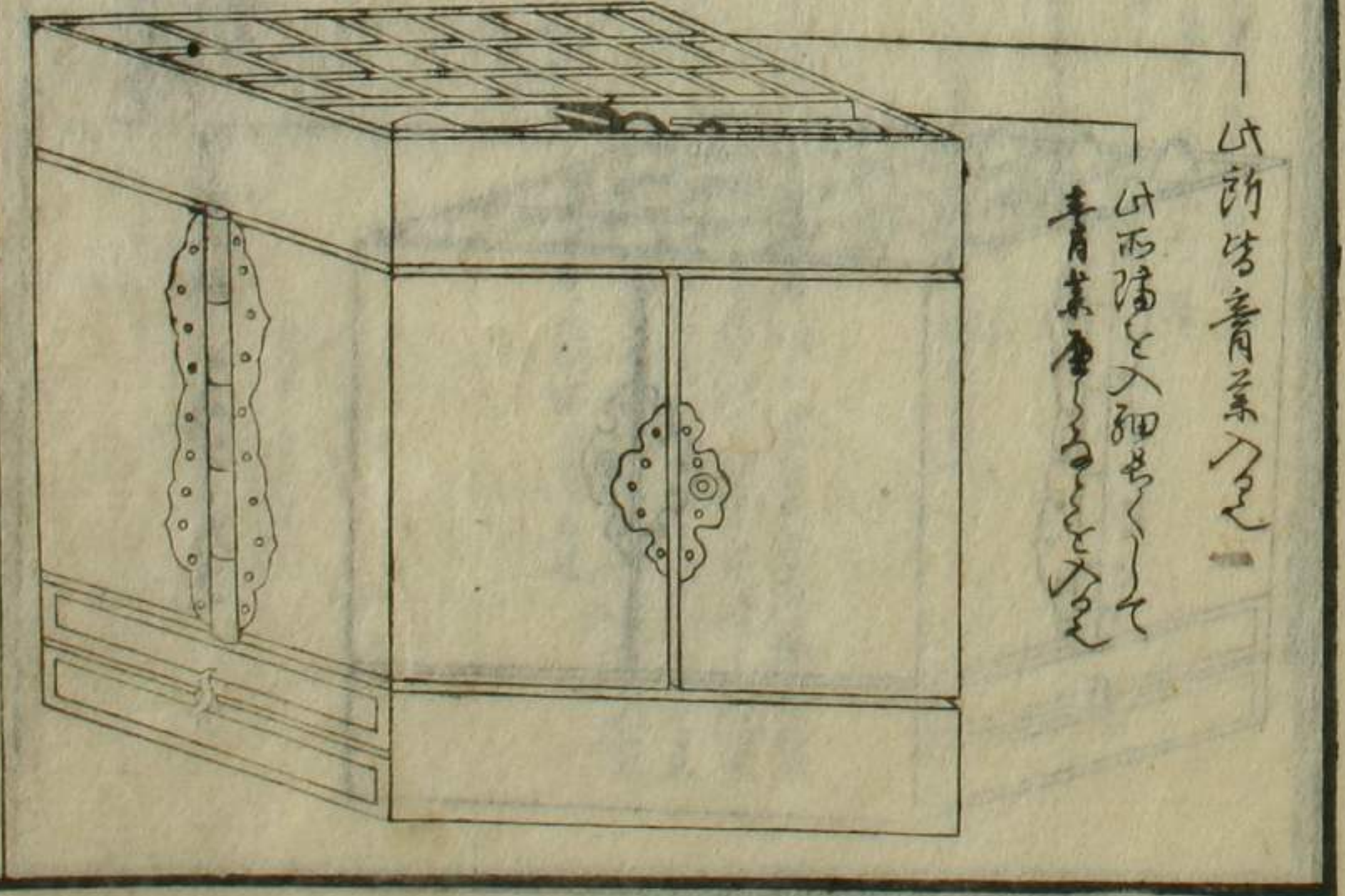
けはすきまをうすく
 のすきまをうすく
 のすきまをうすく

甘き紙をうすく
 は内は紙一枚
 指せ



け新造青葉入り

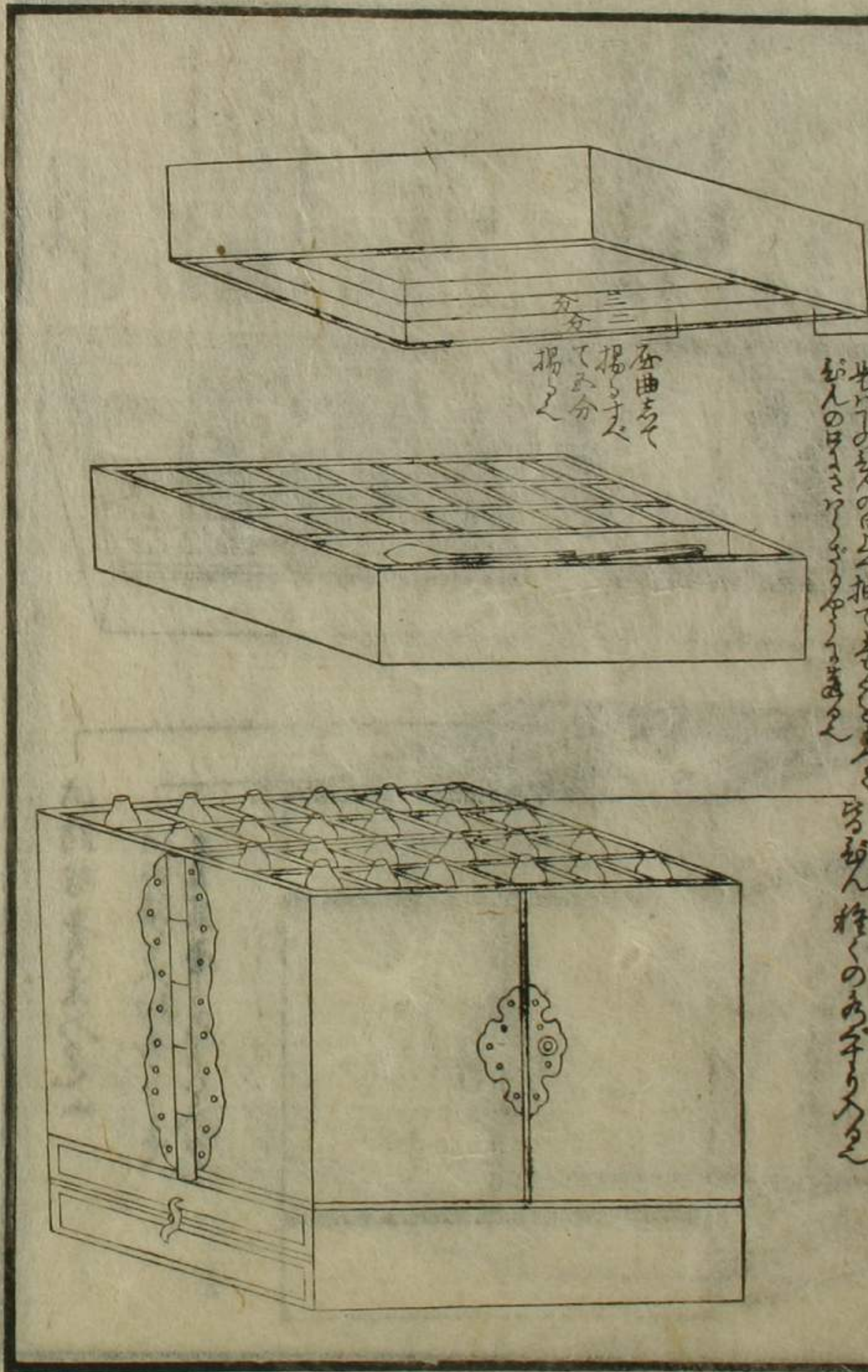
け西端と入細長
 青葉入り



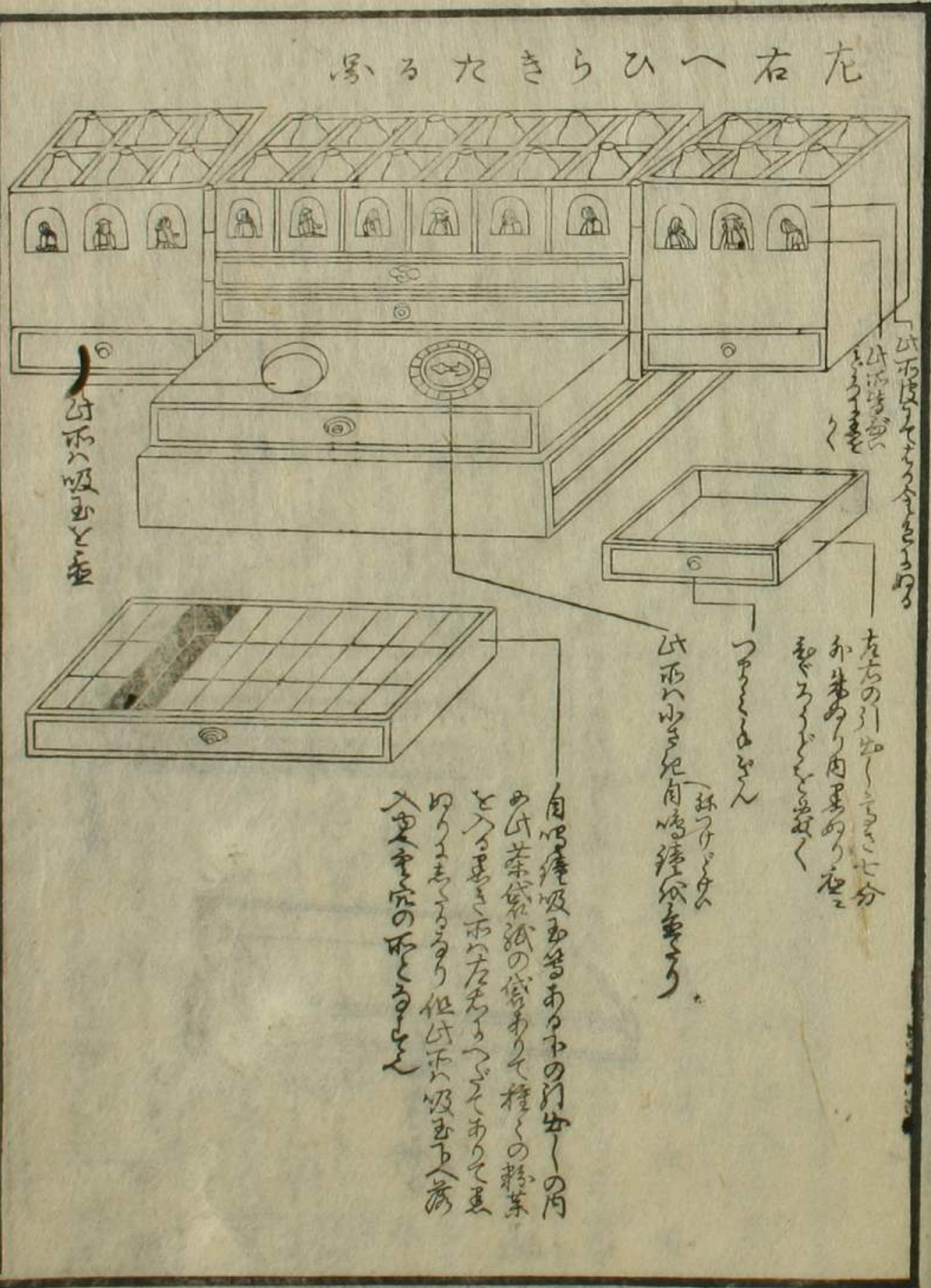
膏茶此入るき依るる家

膏茶の入るる箱の裏の上げを
此の下の板の長久抽でまきとまき
箱の下のまきとまき

箱の下のまきとまき



左右へひらきたる



此の箱は...
左側の引出し...
右側の引出し...

左側の引出し...
右側の引出し...

此の箱は...
右側の引出し...

自然の呼吸...
此の茶袋...
此の箱は...
右側の引出し...

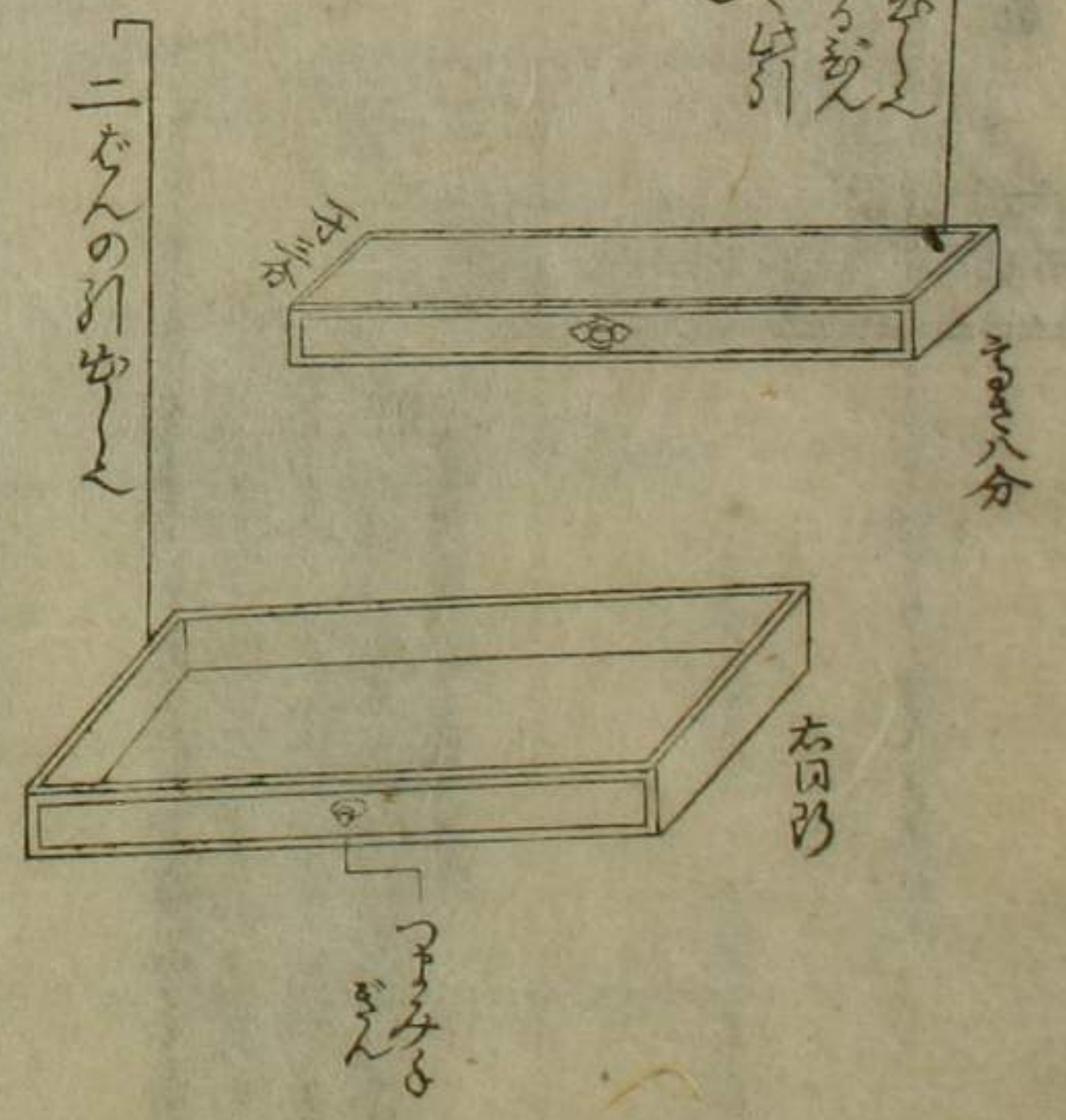
長崎聞見録

卷之五

...

長崎問見録卷之五 大尾

部の下にありけり
後の方より入るべき
皆長きものと短きもの
を短くする



浪華書林前川文榮堂藏版書目 河内屋源七郎

女中庸馮函箱 女版方書一冊
此書は小見原先生著の女版方書にて
世にふりしるる女人の徳を説く書
なり。心持のいよゝんで、徳を説く
小見原先生著の女版方書にて、
世にふりしるる女人の徳を説く書
なり。

大學小解 無澤了外著 全一冊
大學の文とけりしるる付して、
先生著の文とけりしるる付して、
先生著の文とけりしるる付して、
先生著の文とけりしるる付して、

嘉永 大成無及節用集 半紙本 大冊 全一冊
大冊の節用集の類あり、
大冊の節用集の類あり、
大冊の節用集の類あり、
大冊の節用集の類あり、

算法統古車 増補 全一冊
算法の見ゆき、
算法の見ゆき、
算法の見ゆき、
算法の見ゆき、

女從然錦文庫 大冊 全一冊
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、

女從然錦文庫 大冊 全一冊
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、
此書は女にせしむる文庫の類あり、

海術萬寶全書

全六冊
此書は海術の要領を悉く述べたもので、海軍の要員に必要なる知識を悉く述べたものである。海術の要領を悉く述べたもので、海軍の要員に必要なる知識を悉く述べたものである。

小網童子訓

寸巻本 一冊
此書は小網童子の訓を述べたもので、小網童子の訓を述べたものである。小網童子の訓を述べたものである。

字林長考

唐津先生著
此書は字林の長考を述べたもので、字林の長考を述べたものである。字林の長考を述べたものである。

日本水土考

合刊 二冊
此書は日本水土の考を述べたもので、日本水土の考を述べたものである。日本水土の考を述べたものである。

触毒回解大成

全二冊
此書は触毒回解の大成を述べたもので、触毒回解の大成を述べたものである。触毒回解の大成を述べたものである。

網鑑易知録

陰夏楚材輯 全八冊
藤井先生校點 四八冊
此書は網鑑の易知録を述べたもので、網鑑の易知録を述べたものである。網鑑の易知録を述べたものである。

同明鑑

唐本翻刻全部合巻
藤井先生校點 七冊
此書は同明鑑の唐本翻刻全部合巻を述べたもので、同明鑑の唐本翻刻全部合巻を述べたものである。同明鑑の唐本翻刻全部合巻を述べたものである。

呂氏讀詩記

唐本翻刻 全八冊
此書は呂氏讀詩記の唐本翻刻を述べたもので、呂氏讀詩記の唐本翻刻を述べたものである。呂氏讀詩記の唐本翻刻を述べたものである。

讀書錄并續

明薛文清公著
全六冊
此書は讀書錄并續の明薛文清公著を述べたもので、讀書錄并續の明薛文清公著を述べたものである。讀書錄并續の明薛文清公著を述べたものである。

新刻助字考

伊藤東涯著
全二冊
此書は新刻助字考の伊藤東涯著を述べたもので、新刻助字考の伊藤東涯著を述べたものである。新刻助字考の伊藤東涯著を述べたものである。

箋注李杜絕句

劉元高校閱
全二冊
此書は箋注李杜絕句の劉元高校閱を述べたもので、箋注李杜絕句の劉元高校閱を述べたものである。箋注李杜絕句の劉元高校閱を述べたものである。

文章軌範評林

松井羅州先生校訂
全六冊
此書は文章軌範評林の松井羅州先生校訂を述べたもので、文章軌範評林の松井羅州先生校訂を述べたものである。文章軌範評林の松井羅州先生校訂を述べたものである。

題畫詩選

田寺廬門先生著
全一冊
此書は題畫詩選の田寺廬門先生著を述べたもので、題畫詩選の田寺廬門先生著を述べたものである。題畫詩選の田寺廬門先生著を述べたものである。

同詩刪

森川竹窓先生著
全二冊
此書は同詩刪の森川竹窓先生著を述べたもので、同詩刪の森川竹窓先生著を述べたものである。同詩刪の森川竹窓先生著を述べたものである。

考槃餘事

源東溪校 全四冊
此書は考槃餘事の源東溪校を述べたもので、考槃餘事の源東溪校を述べたものである。考槃餘事の源東溪校を述べたものである。

喫茶餘錄

深田香實先生著 全二冊
此書は喫茶餘錄の深田香實先生著を述べたもので、喫茶餘錄の深田香實先生著を述べたものである。喫茶餘錄の深田香實先生著を述べたものである。

同二編

同著 全二冊
此書は同二編の同著を述べたもので、同二編の同著を述べたものである。同二編の同著を述べたものである。

茶話指月集

鶴巢子著 全一冊
此書は茶話指月集の鶴巢子著を述べたもので、茶話指月集の鶴巢子著を述べたものである。茶話指月集の鶴巢子著を述べたものである。

敬亭集腋

見田尚之著 全四冊
此書は敬亭集腋の見田尚之著を述べたもので、敬亭集腋の見田尚之著を述べたものである。敬亭集腋の見田尚之著を述べたものである。

俳諧季寄抄 全一冊

凡俳諧初志... 有まゝて便に... 十回分の英名... 俳式注... 實と出...

俳諧名所撰句集 全四冊

色道其角... 山川... 全五冊

相法秘受解 全五冊

相法秘受解... 全五冊

本朝竹筵 全三冊

相法... 始論... 幼約... 小児の教...

井田音説 全三冊

小児醫癩手引草 全三冊

五府... 板元 河内屋源七郎

江戸大傳馬町二丁目 丁子屋平兵衛

三都 同 京橋彌左衛門町 大島屋傳右衛門

同 下谷御成道 紙屋徳八

發行 同 馬喰町二丁目 菊屋幸三郎

同 淺草福井町壹丁目 山崎屋清七

書林 京都三条通御幸町 吉野屋仁兵衛

大坂心齋橋北久寶寺町 河内屋源七郎版

